

2023（令和5）年8月13日（日曜日）に開催された外国籍県民かながわ会議（第12期・第4回）の議事録は次のとおり。

1 開会

（事務局）

- ・ 会議のルール、傍聴者、会議の録音、欠席者及び配付資料について説明した。

<前回の振り返り、本日の流れについて>

（柳 晴実 委員長）

- ・ 前回の会議では、部会分けを行い、部会長を決定した。
- ・ また、各委員の提言素案に関係する国・県・市町村の施策等について、国際課から情報提供があった。本日は各部会に分かれて、提言を作成するうえで知りたいことや勉強したいことについて、話し合ってもらいたい。
- ・ かながわ国際政策推進懇話会の委員は、多文化共生や外国人施策に関する専門家である。どの懇話会委員に何を聞きたいか、提言を作成する前に知りたいことなどを部会の中で相談してもらって、意見を出してほしい。
- ・ 会議後半では12月3日に開催される多文化共生イベント「あーすフェスタかながわ」についても話したい。例えば、イベントでたくさん人が集まる中でこういうことができたらよいといった案があれば、出してほしい。
- ・ 懇話会委員への意見聴取やオープン会議の日程など、今後のスケジュールについても相談したい。
- ・ また、レダンコア委員から一つ提案があるとのことなので、それも後半に発表してもらいたいと考えている。
- ・ それでは、さっそく部会に分かれて議論をお願いしたい。

2 部会別協議

<情報部会>

（岩松 佐由美 副委員長）

- ・ 前回は部会長の選出を行い、ロボ委員に部会長を務めていただくことになった。今後の会議では懇話会委員から意見を聞いたり勉強会をする予定なので、誰に何を聞きたいかなどを決めたい。

(ロボ ナシメント 部長)

- ・ 情報部会の提言構想の内容は幅広い。改めて内容を確認したい。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 私の提言構想は、小中学生の授業のサポートを対面だけでなくオンライン化できたらよいという内容。先日、オンラインの日本語講座が年数回実施されていると聞いたが、週に数回など定期的にできるとよい。

(河 相宇 委員)

- ・ 日本語講座に加えて小中学生の授業のサポートもお願いしたいということか。懇話会委員にかながわ国際交流財団の方がいるので、聞いてみてもよいと思う。

(ロボ ナシメント 部長)

- ・ 他の都道府県や市町村による実例はあるか。実例があれば、それを見本にして神奈川県への適応方法を検討できるのではないか。

(河 相宇 委員)

- ・ 日本語教室はいろいろな市町村でやっていると思うが、授業のサポートというのはあまり聞かない。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 実施できる可能性があるか聞いてみたい。公文でやっているようなサポートを、多言語でできたら一番よい。宿題で分からなかった部分を子どもの母語で説明し、理解してもらえるようにしたい。

(祁 静 委員)

- ・ 日本語の先生が説明している間に、通訳付きで実施するイメージか。それとも、両方話せる方が学習支援をするイメージか。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 後者の方が、子ども自身も理解しやすいと思う。

(河 相宇 委員)

- ・ 新宿区では外国籍の方が多いため、児童センターのような施設で子どもたちが分からない科目のサポートをしていた。今も続けているかは不明。

(萩 静 委員)

- ・ 母語支援員が、授業中に先生の話子どもに伝える取組はある。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 学校の中ではそういった取組があるが、放課後に実施してほしい。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 放課後に学習支援の場を設置するというイメージか。こういった場所での対応を想定しているか。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 多言語対応できる先生は少ないので、オンラインにしたい。コロナ禍のオンライン授業と同じように対応できたら、県内各地から参加しやすい。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 学校で勉強した内容に関する支援に限定するのか、または公文のような習い事まで含めた支援を想定しているか。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 学校で分からなかったことを聞けるということ。また、公文のように配布された教材で分からないところを質問したりできるイメージ。なかなか国際交流財団の富本委員に、実現可能性を聞いてみたい。

(河 相宇 委員)

- ・ 小中学校は市町村による運営が多いため、県としてどう連携していくかが課題になる。小中学校は多くの科目があり、それぞれ苦手なところや聞きたいところが違う。全体のプログラムを考えると実施するか、個人個人に対応するのか。懇話会委員にやり方を相談するとよいかもわからない。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 先生の能力と経験も人によって違うため、説明する内容をきちんと理解していないと、子どもたちに多言語で説明するのは難しいと思う。

(萩 静 委員)

- ・ 教える側も、教員免許を持った方でないと難しいかもしれない。先生が言ったことを通訳するだけならハードルが多少低くなる。ただ、オンラインは地域に関係なく受けられるので、その点はメリットである。

(河 相宇 委員)

- ・ 授業のサポートは、日本人でも希望すれば受けられるイメージか。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 受けられたら一番よい。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 先生への支援としては、言語面のサポートと報酬が話題になると思う。週何日など実施回数も検討が必要。その他、実現に向けた課題はあるか。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 実現は難しいと思うが、日本語教室にプラスして授業のサポートが、可能性としてどこまで一緒にできるのか相談してみたい。

(祁 静 委員)

- ・ 日本の大学で教育学科に在籍している留学生は、こういう活動に参加してもらえるかもしれない。学生も、実践の場を探しているかもしれない。
- ・ 提言構想メモについては、次の会議では部会毎に整理したものを用意してもらえるとありがたい。

(事務局)

- ・ 承知した。

(祁 静 委員)

- ・ 私の提言構想は、ファミリーサポートセンターの入会資料と支援会員向けの研修資料を多言語化してほしいというもの。一度多言語化すれば、制度や料金などが変わらない限りずっと使える。
- ・ もっと対応できるなら、言語別で支援会員向けの研修会を行うか、通常の日本人向けの研修会に、通訳付きで開催できたらよいと思う。
- ・ ファミリーサポートセンターは、共働き家庭の親が子どもの送迎をお願いできるなど、とてもよい制度である。ただ、両親ともに外国籍かつ日本語が分からないと、こういう制度も使えない。
- ・ よい制度があっても使えないとつらいので、多言語化が必要。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 今のところ、日本語の資料しかないということか。

(祁 静 委員)

- ・ 簡単な説明資料は英語対応しているかもしれないが、ほぼ日本語のみ。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ ファミリーサポートセンターのスタッフは、多言語で話せるのか。

(祁 静 委員)

- ・ スタッフは難しいが、支援者はやさしい日本語で対応している。ただ、利用するだけであればそれほど難しくない。また、支援会員が外国人で同じ国の友だちの子どもを預かる場合は、日本語ができなくても対応可能。

(河 相宇 委員)

- ・ 日本人でも外国人でもサービスが受けられるものなのか。

(祁 静 委員)

- ・ そうである。

(河 相宇 委員)

- ・ 横浜市が行っている事業なのか。

(祁 静 委員)

- ・ 県全体の制度としてファミリーサポートセンターがある。横浜市では、独自に横浜子育てサポートシステムと名付けている。
- ・ 横浜市独自のものはこちらで提言できないため、その他の神奈川県内で行っているファミリーサポートセンターについて提言したいと思っている。

(河 相宇 委員)

- ・ 県ホームページで多言語で情報提供すれば、もっと周知できるのでは。私はこういう制度があることを知らなかった。

(祁 静 委員)

- ・ 当事者でないとなかなか分からない。就学前は保育園に行くので問題ないが、小学校に入ると帰りの時間に間に合わないことがあり、説明会を聞きにいった。そこで日本語の資料しかないが大丈夫か、と言われた。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ どのようにしてこの制度を知ったのか。

(^き ^{せい} ^い ^{いん}
祈 静 委員)

- ・ ネットで調べた。その時、英語の資料が少しあったような記憶がある。
あまり外国籍の方が利用することを想定していないのかもしれない。

(ロボ ナシメント ^ぶ ^{かい} ^ち ^{ょう}
部会長)

- ・ 祈委員の提言は、説明資料と研修会の多言語対応ということか。

(^き ^{せい} ^い ^{いん}
祈 静 委員)

- ・ どのような制度でどういうサービスが受けられるのか、説明資料が日本語だと外国籍の方には理解が難しいため、多言語化が必要だと思う。
- ・ 研修会も中国の方が多いときは中国語、ベトナムの方が多いときはベトナム語、日本人と一緒に参加する場合は通訳付きにしていきたい。
- ・ 言語別の説明会を録画し、その映像を見せるという対応も考えられる。

(^{いわ} ^{まつ} ^さ ^ゆ ^み ^ふ ^く ^い ^{いん} ^ち ^{ょう}
岩松 佐由美 副委員長)

- ・ ハローワークでも、私が働く現場ではその言語の方がいない日でも動画で説明を見られる。通訳がいなくても対応できるのはよいと思う。

(ロボ ナシメント ^ぶ ^{かい} ^ち ^{ょう}
部会長)

- ・ 資料の多言語化だけではなく、日本語が分からない方へのPRも必要。

(^き ^{せい} ^い ^{いん}
祈 静 委員)

- ・ インターネットで自分の母語で検索できればよいが、日本語でしかヒットしない。こういう制度を知らない外国籍の方は、ベビーシッターを頼んだりしている。近所に頼れる人もいないので、市役所や区役所などで、信用できる機関や人を紹介してくれるとありがたい。

(^{いわ} ^{まつ} ^さ ^ゆ ^み ^ふ ^く ^い ^{いん} ^ち ^{ょう}
岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 住民登録するときに、そういうパンフレットをもらえるとよい。

(ロボ ナシメント ^ぶ ^{かい} ^ち ^{ょう}
部会長)

- ・ 保育園、小学校などの施設でも配布するとよい。施設への入園、入学の際に提供してもらえれば助かるのではないか。
- ・ この提言の第一歩としては、誰に相談するのがよいと考えるか。

(^き ^{せい} ^い ^{いん}
祈 静 委員)

- ・ 6番の富本委員、9番の鈴木委員、10番の徳永委員に話を聞きたい。

(ロボ ナシメント 部会長)

- 行政側はどういった部署が担当しているのか。

(萩 静 委員)

- 市町村によって管轄しているところが違うと思うが、ファミリーサポートセンターがどこに当てはまるかは、確認していない。

<次世代教育部会>

(肖 欣怡 部会長)

- 懇話会に聞きたいことと、勉強会でやりたいことについて話したい。

(韓 昌燾 委員)

- 懇話会委員に何を求めるのか。

(肖 欣怡 部会長)

- どういう形で懇話会とかかわるのか、まだ分からない。

(韓 昌燾 委員)

- 部会としてどう対応していくか。例えば懇話会委員と議論したいのか、案を作成してアイデアをいただくのか、どちらかだと思う。

(肖 欣怡 部会長)

- 今回部会で話すのが初めてなので、まず各個人の話をもとめてから、部会としてどういう形で懇話会と話すのか決めたいと思っている。

(韓 昌燾 委員)

- 外国人の子どもたちに対する日本語教育、母語や母文化について学ぶ機会を作るなど、いろいろな提言構想があるので、部会内で議論したい。
- 懇話会委員の経歴を見ると多文化共生の観点で活動している人が多く、母語や母文化について当事者の観点で質問できる人はあまりいないと思う。

(肖 欣怡 部会長)

- 誰かに意見を伺うよりも、部会としての今後の方針を知りたい感じか。

(韓 昌燾 委員)

- 順番として、今後の方針が決まった後に、どういう人の意見が聞きたいという話になっていくのではないかと思う。

(サブコタ ドルラズ 委員)

- ・ 外国につながる子どもたち向けの教育が、学校でどこまで務まるか。日本語教育だけでなく普段の生活についてもいろいろ学ぶことがある。子どもだけではなく、親も学校のシステムが分からない、子育てのやり方もあまり理解していない場合がある。まずは子育てにフォーカスしたい。
- ・ 懇話会の柏崎委員、坪谷委員、田口委員や、高橋委員、丸山委員のうち一人か二人くらいから、アドバイスをいただけたらと思っている。

(蒋 香梅 委員)

- ・ 11番の高橋委員は多文化共生教育と若者の就労支援が専門なので、この部会で話を聞く方としてよいのではないかと思う。

(サブコタ ドルラズ 委員)

- ・ 14番の横山委員は、母語・母国文化の保持に携わっており、30年以上の経験があるとのことなので、話を聞いてみたいと思った。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 懇話会委員はそれぞれ様々な専門分野があるが、外国人の子どもの教育、多文化共生、生活面や子育ての分野の支援について詳しい先生を優先的に考えるということではどうか。
- ・ なお、11番の高橋委員は、一度お話を伺ったことがある。留学生に限らず、家族滞在の在留資格で高校、大学に進学して就職する子どもたちの在留資格による格差や違いについて詳しい方である。
- ・ 次に、勉強会でやりたいことを話したい。順番に発言をお願いしたい。

(韓 昌熹 委員)

- ・ 部会の中で何の話をするかをまず示してくれないと、順番に発言を求められても答えられない。例えば、各委員の提言構想に関する勉強会をする、各委員が提言しようとしている課題は異なるが、例えばこういったグループ分けができるので、こういった勉強会をしてはどうかとか。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 提言構想メモの備考欄に、勉強会でやりたいことを書いた方と書いていない方がいる。自分の提言構想でも他の委員のものでも、次世代・教育部会のテーマで勉強したい内容があれば、意見をいただきたい。

- ・ 私の場合は当初の時点で勉強会のテーマを二つ出した。各委員の話
を聞いたうえで新たなアイデアが浮かんだ場合は、この場で意見を
共有していただいてもよい。

(蔣 香梅 委員)

- ・ 自分は当初記載した「日本語指導について」でよい。小中学校は対応
が充実しているので、高校における対応をテーマとしたい。
- ・ 私が高橋委員を推薦する理由でもある。高橋委員は外国につながる子
どもの高校進学や在留資格にも詳しい方なので、話を聞いてみたい。

(サブコタ ドルラズ 委員)

- ・ 外国人の子どもたちが、母国の文化や母語について勉強できる機会が
必要と考えているので、それに関する勉強会を行いたい。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 企画方法や運営方法について、勉強したいということでしょうか。

(サブコタ ドルラズ 委員)

- ・ そうである。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 各委員の関心はバラバラなので、自分の関心があるキーワードをいくつ
か出すと、観点が明確になると思う。出てきたキーワードを例えば三つの
大きなグループに分けて、それぞれの内容について専門家の意見を聞いて
知識を強化してから、部会として提言をまとめていく方が効果的だと思う。
- ・ 私のキーワードは子育てと、若者の地域のイベントへの積極的な参加、
その二つである。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 部会をいくつかのグループに分けて、各テーマに沿って違う専門家の
話を聞くということか。

(レ ダンコア 委員)

- ・ そうである。私たちの関心はバラバラで、各個人の経験はあるが、
専門家の意見も必要である。まずは現状を把握したうえで、考えをまと
めていくことが必要だと思う。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌燾 委員)

- ・ 私は、外国人が所属する団体のネットワーク化をテーマとしている。外国人の団体はいろいろあるが、団体内のコミュニケーションは十分ではないと思う。そうした状況でも横のつながりが必要か把握したい。
- ・ 藤沢市や大和市の懇話会委員にニーズがあるかどうか、もしそういうつながりが既にあるならどういう形で運営しているか聞いてみたい。

しょう きんい ぶかいちょう
(肖 欣怡 部会長)

- ・ ニーズとは、行政側のニーズのことか。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌燾 委員)

- ・ 外国人に、「外国人同士のつながりは必要か」と尋ねたら、「必要ない」とは言わないと思う。ただ、外国人自らが事務局業務を担えるかという点と難しい。運営を継続するためには、行政にも動いてもらう必要がある。
- ・ 情報伝達や意見交換を行う場としてのニーズがあるなら、意味がある。そもそもニーズがなければ考え直す必要があるが、ニーズはあるがやり方が分からないのであれば、提言する余地があると思う。

しょう きんい ぶかいちょう
(肖 欣怡 部会長)

- ・ 続いて愈委員、御意見をお願いしたい。

ゆう だいたつ ふくいんちょう
(兪 大達 副委員長)

- ・ 外国人の子どもは将来の担い手であり、きちんとした教育が必要である。外国にルーツがあり、日本語の教育をきちんと受けず進学もしていないと、社会に出たときに働きたくても選択肢が少なくなってしまう。
- ・ 母国語も重要だと思うが、日本の社会で生きていくためには、何より日本語の教育が必要である。専門家がどのような研究をしてきたのか、その成果をどう生かせるかと考えているのか、そういう話を聞きたい。
- ・ 専門家の理論を実践の中でどう生かせるのか、行政としてどう対応していけるのか、それをうまくつなげるような提言ができたらと思う。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌燾 委員)

- ・ 国籍で考えると綺麗に分けられるが、背景が同じというわけではない。オールドカマーとニューカマーがいて、その中でもいろいろな人がいる。外国人誰でもとなると、難民の子どもはどうするといった問題も出てくる。

- それぞれの背景が異なる中で、外国人すべてを対象にすると話がややこしくなるため、ターゲットをもう少し細かく設定する必要がある。

(兪 大達 副委員長)

- 私は行政書士なので経験上分かるが、細かく分けると、各個人の在留資格の問題に関わってくる。
- 先日、国が在留資格のない子ども約200人に対して、在留特別許可を与える方針を発表した。難民として日本に来た親の子どもたちには在留資格がなく、日本で育ったため日本語しか話せない。この子どもたちのために何ができるかという、在留資格を与えるしかない。在留資格は、教育以前の問題である。細かく分けるとそうした問題と関わってくるが、在留資格は国の所管なので、県のレベルでは対応しきれないと思う。

(事務局)

- 子どもたちの背景は様々だが、今後、日本で暮らしていく子どもたちの教育をどうするのかという観点で考えれば、難民の子どもは別にしても、「外国につながるの子どもたち」というキーワードで括れると思う。
- 教育についても、学校教育なのか日常生活での日本語教育なのか、キーワードで絞った上で、どの委員に話を聞くか検討するとよいと思う。

(肖 欣怡 部会長)

- 事務局に確認したい。勉強会のやり方として、委員のつながりで外部の先生を呼ぶとか、懇話会のつながりで実施するなど決まりがあるか。

(事務局)

- 決まりはない。希望があれば、事務局から有識者等に連絡を取って日程調整することになると思う。

(肖 欣怡 部会長)

- 勉強会には委員全員が参加するのか。それとも、部会毎に行うか。

(事務局)

- いろいろな実施方法が考えられる。

(レ ダンコア 委員)

- 人数の制限はあるか。

じむきょく
(事務局)

- ・ 予算の都合により、年間で9名程度。他の部会でどれだけ呼びたいかにもよるが、2、3人希望を出して、様子を見る感じだと思う。

しょう きんい ぶかいちょう
(肖 欣怡 部会長)

- ・ 日本の移民受入政策について、懇話会の中で、移民政策について専門的な知識を持っている方の話を聞きたい。在留資格は様々だと思うが、外国籍住民全般に関わる移民政策の動きや、最新の情報について知りたい。
- ・ もう一つ、外国人の若手研究者や起業家の活躍事例、どの分野でもよいが、外国籍住民の当事者のモデル的な活躍事例を知りたい。
- ・ 各委員の意見をまとめると、勉強会でやりたいことは、外国人の子どもの日本語教育に関する支援と、外国人の家庭の子育てや就労を含む生活に関する支援。この二つのテーマで話を聞くということによいか。

ほん ちゃんひ いいん
(韓 昌熹 委員)

- ・ 就労支援はなぜ必要か。難民を除くと、日本では基本的に経済活動をしていない外国人は住めない。就労支援のターゲットは誰なのか。

じむきょく
(事務局)

- ・ 蔣委員の先ほどの話だと、留学生などがターゲットになるかと思う。

ほん ちゃんひ いいん
(韓 昌熹 委員)

- ・ それなら、日本社会が外国人留学生を有効活用するような支援制度と言わないといけない。子育て家庭の話をしながら就労支援の話が出てくると、子育て中の母親が仕事をできるようにする、といった話が混ざってくる。どちらをターゲットにしているのか。

しょう きんい ぶかいちょう
(肖 欣怡 部会長)

- ・ 就労支援のターゲットの一つは、外国人留学生。もう一つは、家族滞在の在留資格で日本にいる若者で、独立して今後就職活動する人。

ほん ちゃんひ いいん
(韓 昌熹 委員)

- ・ 日本で教育を受けた外国籍住民の就労支援ということか。

しょう きんい ぶかいちょう
(肖 欣怡 部会長)

- ・ 留学生だけではなく、日本で就労の意欲がある外国籍住民全員を

対象として、その中でどうターゲットを絞るかは、専門家の意見なども参考にしながらい今後検討することになると思う。

事務局

- 皆さんの意見を踏まえて、懇話会委員を三人挙げるとしたら、一人目は高橋清樹委員。日本の学校教育にとどまらずいろいろな教育支援に取り組んでおり、地域コミュニティについても詳しいと思う。
- 二人目は田口香奈恵委員。学習支援に限らず、進路支援や就労支援の話まで、全般的に相談できると思う。地域ボランティアとしても活動しているため、その目線でいろいろなお話が聞けると思う。
- 三人目は藤沢市又は大和市。団体のネットワーク化に関するニーズは把握していないかもしれないが、行政の考えを聞いてみてもよいと思う。

韓昌燾委員

- 災害発生時のことを考えると、外国人のネットワークは少しでもあった方がいいかもしれない。

事務局

- 我々もコロナの時、ベトナムのコミュニティに行って直接情報を伝えたことがあった。市町村の目線からも意見が聞ければよいかもしれない。

韓昌燾委員

- 県の規模だと難しいが、市町村くらいの規模感であればつながりがあるかもしれない。

事務局

- 県への提言というより、市町村へのお願いになるかもしれないため、その点は追って調整が必要になる。

レダンコア委員

- 外国人コミュニティに関して、誰か先生を呼びたいとなったらできるか。

事務局

- 各委員の意見として同じ先生を呼びたいという希望であれば、事務局でまとめて連絡する。各委員の知り合いで直接連絡していただくケースもあるかもしれない。やり方はいろいろ考えられる。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 勉強会の具体的な実施方法は、まだ検討中ということか。

(事務局)

- ・ そうである。全体会議で意見をまとめる際に決めるかもしれない。

(韓 昌燾 委員)

- ・ あるテーマに関する講座をお願いする、といった形式ではないのか。

(事務局)

- ・ 例えば、高橋委員に来ていただいて、各委員から質問をして、それに対して回答してもらおう、といった感じになると思う。

(韓 昌燾 委員)

- ・ 外国人に対する日本語教育について教えてください、という質問だと答えられないか。

(事務局)

- ・ 範囲が広すぎて話が止まらなくなってしまうかもしれない。

(韓 昌燾 委員)

- ・ もう少し細かい質問にしないと、聞きたいことが聞けないかもしれない。

(事務局)

- ・ 部会の中でこういう議論がしたいという内容を事前に懇話会委員に伝えておかないと、聞きたい話が聞けないかもしれない。

(韓 昌燾 委員)

- ・ 確かに、漠然としたことに対して話を求めても難しいかもしれない。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 次に、提言構想メモについて、今の時点で直したい部分はあるか。

(事務局)

- ・ 懇話会委員などの意見を聞いたうえで直した方がよいかもしれない。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 現時点で直したいところはないということによいか。(→意見なし)

じむきょく
(事務局)

- ・ 意見を聞くときは、小中学校の教育、高校での教育、それ以外の学校に行っていない人への日本語教育支援など、カテゴリー毎に分けて質問した方が先生も分かりやすいと思う。そうしないと、教育といってもどの分野について話をすればいいのか、ということになる。
- ・ 懇話会委員の日程を取るまで時間があると思うので、各自で考えていただければと思う。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌燾 委員)

- ・ 小学校低学年は日本語教育ではなく国語の教育になる。親が日本語を話せないことが問題になる。本来、小学校低学年は家庭で日本語を身に付けるが、外国人家庭では、国語を学んでも家で日本語を話さない。
- ・ 一方、中学生のときに日本に来た人の場合、他の生徒は学習が進んでいるので、短い期間で順応させる教育のスキルの問題が出てくる。
- ・ いつ日本に来たか、家庭で日本語を話すかどうか、いろいろな状況に合わせた対応が必要である。それが学校教育ではできない状況なので、NPOや地域コミュニティがいろいろサポートしているが、きちんと日本語教育の方法を学んだ人ではないので、難しい部分がある。
- ・ どういう人にどこまで教育すべきか、先ほど細かくするほど難しくなるという話もあったが、細かくしないと解決できない問題もあると思う。

じむきょく
(事務局)

- ・ そういった関係の話も高橋委員は答えられると思うので、適任である。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌燾 委員)

- ・ 大学に行くと第二言語を学ぶが、その時初めて母語を学ぶ外国人もいる。例えば、日本の大学に行って初めて中国語を学ぶなど。

じむきょく
(事務局)

- ・ 大学という意味では、先ほどの田口委員はちょうどよいかもしれない。語学教育センターの方なので、いろいろと詳しいと思う。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌燾 委員)

- ・ 日本語を話せる留学生は意外と少ない。私の通った学校は英語が話せば問題なかった。日本語が話せなくても、必要な書類はスタッフが英語

で対応してくれた。日本の大学だが、日本語があまり上達しなかった。
日本人の学生は英語が話したいので、それに付き合う形になる。

- ・ 大学にいる間に日本語能力が伸びず、社会に出るタイミングで日本語が話せないと、就職できずに帰国してしまう。就職支援の先生たちは、「日本語を勉強しなさい」と言うが、あまり皆真剣に受け止めていない。

(俞 大達 副委員長)

- ・ 留学生にもいろいろなタイプがいる。日本語学校で1～2年勉強してから大学に進学する人もいるし、いきなり大学院に進学する場合もある。

(韓 昌熹 委員)

- ・ 最近はいきなり大学院に行く人が多い。私が学生の時は、日本語が話せないと先生たちが指導できないため、日本語試験に合格してから来るように言われたが、今はいきなり入学試験を受けてしまう人が多い。試験は受けられるが、入学後に2年で日本語ができるようになるわけではない。

<社会福祉部会>

(柳 晴実 委員長)

- ・ 各委員の提言構想は、高齢化問題が鈴木委員、MIC かながわの心理カウンセラーにすることがハリロバ委員、外国籍の保護者とその子どもに対する発達障害の支援がリディア委員である。
- ・ 私の提言構想は教育に関することなので、社会福祉部会ではこの三つについて、何を勉強して、どう提言をまとめていくかになると思う。
- ・ 懇話会委員で社会福祉部会に関係しそうな知見を持つ方としては、移民政策等を研究している柏崎委員や長縄委員が挙げられる。例えば高齢者問題など直接的には関係ないが、日本全体の中での移民政策の考え方に基づいている部分もあると思う。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 6番の富本委員はどうか。相談対応の中での実例を御存知だと思う。

(柳 晴実 委員長)

- ・ かながわ国際交流財団では、就学前の子どもの育児に関するパンフレットを作成している。そういう部分の現状や、発達障害の子どもに関する保護者への伝え方などについて、富本委員に話をしてもらえと思う。

- また、12番の丸山委員は「発達障害を含む多様な困難を抱える人々の社会復帰のサポートをしている」と記載がある。どういう取組をしていて、どのような話を聞けるかは分からないが、相談の余地があると思う。
- 鈴木委員の提言構想に関連して、4番の檜垣委員は労働組合の方で、「県内で働く県民に関する労働関係全般についての課題に対する政策提言」や「共生社会の実現に向けた政策提言」といった取組をしている。高齢者への対応もあるが、働き始める時に、外国人に対して介護保険などの制度をどう周知しているか、といった話を聞けたらと思う。
- 5番の関口委員は、企業の採用する側なので、外国人目線での話がどれくらい聞けるかは分からないが、話を聞くと参考になるかもしれない。
- 懇話会以外では、多文化高齢社会ネットかながわが、高齢者に関する実態調査を行っているため、その内容がある程度まとまっていれば、現状について教えてもらうことができるのではないかと思う。

鈴木 クリスチーナ 委員

- かながわ国際交流財団が、9月に介護保険制度の研修を実施する。その内容も参考になると思うが、外国人高齢者の専門通訳等の問題に対して、行政側の現状の対応内容や、今後の対応に関する考え方を聞きたい。
- 9番の鈴木憲二郎委員は行政の方なので、参考になる話が聞けると思う。
- 外国籍の方も介護が必要になった時に行政の窓口に行くが、どういう形で手続きを進めているのか、窓口の方も日本語が分からない人が来た時にどのように対応しているか聞きたい。
- 介護サービス情報公表システムというものがある。介護事業所や利用可能なサービス等を調べられるが、こういったシステムがあること自体が知られていないため、外国人はアクセスできない。
- 介護保険に関することなど専門的な知識が必要なのに、外国人対応はボランティア任せになっている。そういった問題に対応できる事業を立ち上げるなど、何らかの対応が必要である。

柳 晴実 委員長

- 懇話会委員の中で、そういった話を聞けそうな方は他にいますか。

鈴木 クリスチーナ 委員

- 多文化高齢社会ネットかながわに話を聞いた方がよいかもしれない。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- 鈴木委員の意見に賛同する。いろいろな情報があっても私たちの手元に届かないし、実際に必要に迫られる状況になるまで、介護保険制度について知らない人が多い。介護保険が利用できる年齢になったことも知らないし、利用方法も知らない。実際に制度を利用したいと思ったとき、病院に行けば利用方法を教えてもらえるが、行かなければ分からない。
- 介護保険の利用方法や手続きの流れが事前に分かっていたら、老後も安心して生活できる。いざとなったら国に帰ろうと思っているニューカマーの方は多いと思うが、実際にその時になったら、母国から離れている期間が長くなり、半分くらいの方は帰るところがないと思う。
- 新たに日本に来た方も、安心して老後を迎えるための計画を立てられるようなパンフレットや、どこでどのようなサービスを提供しているといった説明が受けられるとよい。
- 子育てに関しては、学校でいろいろな制度の説明資料をもらえるが、高齢者向けにもそういうものがあるとよい。実態調査は、その結果として私たちが暮らしやすくなるような、具体的な取組につなげてほしい。

りゅう ちよんしる いいんちやう
(柳 晴実 委員長)

- 働く方々が仕事をしやすくなるための実態調査ではなく、その結果を受けて私たちが生活しやすくなる、その情報をどう生かしていくかが重要である。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- 先ほど鈴木委員が言っていた介護サービス情報公表システムのこと、知っている人に教えてもらってはじめて分かる。
- 例えばインターネットで「外国人」「介護」と入力しても、たくさんの情報が出てきてどれを見ればよいか分からない。キーワードを入力したら、すぐに私たちが必要な情報を得られるようになるとよい。

はりろば なたリア 委員

- ChatGPT をまだ横須賀市しか活用していない。県のホームページに似たようなものを設置できれば、自分の国の言葉で何でも検索できる。例えば電子機器を使うのが苦手な高齢者は、電話で質問すると人工知能が答えてくれるような仕組みがあれば、外国人も楽になると思う。

(金 愛蓮 委員)

- ・ あれば分かりやすい。世代によってネットが使える範囲や技術が違う。

(柳 晴実 委員長)

- ・ 情報を得られるようになった場合の効果は、どの程度あると思うか。

(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ 私の職場ではパンフレットを配架しているが、持っていく人が少ない。いろいろなパンフレットがあって、必要なものがあれば見ているが、複数持っていく人は少ない。どこまでパンフレットに意味があるかとも思う。

(柳 晴実 委員長)

- ・ 必要になった時では遅い場合もある。すぐに情報が必要な場合と、もっと早い段階から情報として入手しておいて、後々きちんと知っている状態になること、二つの側面があると思う。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 外国人は入国管理局に行くので、電子掲示板などで周知できるとよい。

(柳 晴実 委員長)

- ・ そういうものは今はないのか。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 入国管理局には、法律相談のチラシや行政書士事務所のパンフレットが置いてあるが、隅に置いてあるため見る人が少ない。

(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ ブラジル領事館で配布しているパンフレットには、高齢化に関する制度についても説明が載っている。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ ポルトガル語で載っているのか。

(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ そうである。年金についても、ブラジルと日本でそれぞれ加入していたら協定に基づいて両方使えるとか、そういった説明がある。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 県から、大使館と領事館に対して、そういうことを外国人に知らせてほしいと伝えることはできるか。

(事務局)

- ・ 伝えることはできる。ただし、実施するかどうかは先方の判断になる。

(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ あーすプラザの外国人相談窓口でアウトリーチを行っている。例えば今回は年金のことを話しましょうという形で、最初に勉強会が行われ、その後で相談会を実施している。こうした取組はととてもよいと思う。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 広報さがみはらに、介護保険に関する記事が掲載された。具体的な困りごとや相談先などが載っており、外国人も知りたい内容だと思う。
- ・ 広報さがみはらは新聞の折り込みで配布しているため、新聞を購読していない人には届かない。駅にも配架されるが、すぐになくなってしまう。
- ・ 外国人の場合、市にお願いすると1年間無料で届けてくれるシステムがある。私は相模原市に住んでいるが、広報紙を知るまで10年かかった。日本人の配偶者や知人がいれば情報が入るかもしれないが、外国人だけの家庭だとかいう情報すら入らない。
- ・ こういう広報紙は外国語版も作って、国際交流ラウンジなどで配布することが必要だと思う。
- ・ 社会福祉部会で、高齢者問題は推していきたいと思う。ニューカマーの一部は60歳を過ぎて高齢者になってきている。入るお墓がないなど、日本で老後を暮らすことに危機感がある。自分の国に帰ることも難しい場合が多く、この問題についてはしっかりとした提言を作りたい。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 長期間日本にいと、精神的に不調を来してしまう外国人がいる。最初の10年くらいは大丈夫でも、その後で様子がおかしくなる場合もある。高齢になった時に、その割合がどうなるかが気になる。
- ・ 私はボランティアの学校に通っているが、80代、90代の日本人の先生たちは頭の回転が速くぼけていない。しかし、自分の周りでは、比較的若いうちから理屈の合わないことを言い出す外国人もいるので、こういった方が年を取ったら、日本の介護施設は大変なことになると思う。

- MIC かながわで通訳をしているが、今の時代にボランティアだけで対応するのは難しい。経済状況が変わり、物価も高くなって、ボランティアとして続ける魅力がなくなっている。すごく大変な仕事だが、何か資格が取れて仕事にもつなげると、プラスになる部分が多いと思う。
- MIC かながわの研修会に参加した時に横に座っていたスペイン語の通訳の方は、すごくストレスが溜まっていた。過去に通訳した外国人のことを非常に悪く言っており驚いた。同じ通訳同士で心理カウンセリングみたいなことができれば、悩み事を聞くことができる。MIC かながわの研修で、県からの支援で何か資格が取れば、やりたい人が出てくるのではないかと。

(金 愛蓮 委員)

- どのような資格があるか調べてもらってよいか。県がそれをどのように支援するのがよく分からない。
- 通訳の依頼をする時は、県から MIC かながわに依頼するのかわ。

(事務局)

- 病院から MIC かながわに依頼がきて、コーディネーターにマッチングをしていただき、マッチングされた病院に派遣するという流れである。

(金 愛蓮 委員)

- MIC かながわの通訳に支払う謝礼金はどこから出ているか。

(柳 晴実 委員長)

- 医療機関が負担しているが、一部患者負担となる場合もある。

(金 愛蓮 委員)

- 行政は運営に関わっていないのか。

(事務局)

- 各自治体も負担金を出している。各自治体や協定医療機関からお金をいただいて、行政と MIC かながわとの協働事業として医療通訳派遣システムを運営している。

(鈴木 クリスティーナ 委員)

- かながわ外国人すまいサポートセンターは委託業務か。

(柳 晴実 委員長)

- ・ 委託業務の形は取っているが、運営方法は少し異なる。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 通訳ボランティアの謝礼金を上げてほしい場合、誰に言えばよいのか。謝礼金が低く一般的な時給にも満たないことが、通訳者が育たず、現場を去る原因の一つだと思う。各自治体や医療機関の負担額をもう少し上げて、通訳ボランティアの謝礼金を上げるような道を作れるとよい。

(柳 晴実 委員長)

- ・ その内容を提言するなら、提言の中で県に求めることはできると思う。
- ・ ボランティアの意識向上や心理的なケアを求めると同時に、活動内容に見合った保障が必要といった提言を作ることができる。

(金 愛蓮 委員)

- ・ MIC かながわでは研修を行っているが、資格につながるものはないか。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 例えば医師が参加する勉強会等はあるが、資格につながるものはない。

(柳 晴実 委員長)

- ・ 詳しい話を聞いたら、MIC かながわの人に来てもらった方がよいと思う。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 財団法人が実施する資格試験もたくさんある。国家資格ではないと活用できないかもしれない。資格を取っても活かせる現場がないと意味がない。MIC かながわには現場がある。謝礼金を上げたり勉強する機会を増やすことで、ボランティアの質を上げるといった提言をするとよいのではないか。

(柳 晴実 委員長)

- ・ 現状をもう少し詳しく把握した上で、提言の内容を詰めたと思う。

(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ 外国人高齢者の問題について、専門的な相談に乗ってもらえたり、必要な通訳を派遣できるような機関があるとよい。

(柳 晴実 委員長)

- ・ かながわ外国人すまいサポートセンターでは、家探しの相談が来たら、

詳しい人が手続きの方法を教えたり、同行したり、通訳しているが、高齢者に関して似た事業を県で立ち上げられないかということだと思ふ。

鈴木 クリスチーナ 委員

- ・ 県の中に、外国人高齢者支援センターみたいなものを設置できるとよい。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ ChatGPT を県のホームページに設置してはどうか。自分の国の言葉で検索すれば、情報が入手できる。

柳 晴実 委員長

- ・ ChatGPT についてきちんと勉強しないと、提言につなげるのは難しい。
- ・ 懇話会のサリ委員はITに詳しいため、話を聞くと参考になるかもしれない。
- ・ 勉強したい内容の全部を県民会議の中でできるかは分からない。他の部会の希望も考慮しながら、外部の勉強会に出席することも検討することになると思ふ。

3 全体会議

柳 晴実 委員長

- ・ 各部会で話した内容について共有をお願いしたい。

<情報部会>

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 二つの提言構想について詳しく話をした。最初は岩松委員の提言について、学習支援のサポートをしてあげれば子どもたちが理解できるようになるということで、オンライン化を提言しているものである。
- ・ 学校で困っていることや分からないところがあれば、放課後オンラインでボランティアや先生たちが、その内容について日本語や母語で生徒たちに説明してあげれば、理解できるようになる。この提言については、資料2の6番に書いてあるかながわ国際交流財団の富本委員から、これまでの経験に基づくアドバイスをいただきたいという結論になった。

岩松 佐由美 委員

- ・ かながわ国際交流財団では、日本語のオンライン教室を年に数回開催

しているとのことだったので、私が提言した内容を一緒に実施するよう
な可能性も含めて、話を聞いてみたい。

(ロボ ナシメント 部長)

- ・ ボランティア活動として実施するか、先生が報酬をもらって教えるか
という点もある。富本委員に聞けば情報を得られるのではないかと思う。
- ・ もう一つ、祈委員のファミリーサポートセンターの提言構想についても
話した。あまり知られていないが、日本人以外でも使うことができる。祈
委員から簡単に説明をお願いしたい。

(祈 静 委員)

- ・ ファミリーサポートセンターという全国的な制度がある。これは子育て
中の家庭を支援するための利用会員と支援会員が登録して、自分が住ん
でいる地域の中で、子育ての相互援助を行うことを目的としている。
- ・ ただ、まず入会説明会に参加しないと会員になれない。会員になれな
いというサービスが受けられない。外国籍の方、特に日本語が分から
ない方だと、せっかくよいサービスがあるのに受けられずもったいない。
- ・ 入会申込書と、入会説明会で配付する資料の多言語化をお願いした
いと考えている。また、会員になった後、支援側になりたい外国人向け
に言語別の支援会員の研修会を開催したり、研修会に申し込む外国人が
少ない場合は日本人と同じ研修会を通訳付きにして開催してほしい。
- ・ この制度は生後57日以降から小学校6年生まで幅広く使える制度であ
り、例えばお母さんが美容院に行きたいといった理由や、リフレッシュ
目的でも利用可能である。保育園や幼稚園に行っていない方でも使える。
保育園や幼稚園に行っている方でも、土日などに利用することができる。

(ロボ ナシメント 部長)

- ・ 部会内の話としては、資料を多言語化するのとはそんなに難しくはないが、
日本語が分からない方にこの制度をどうやって周知するかが課題だという
話になった。例えば教育施設にこの情報を伝えれば、子どもたちの
両親にこの制度の存在が伝わる。資料を多言語化しても、利用したい人
がその制度を知らなければ、無駄になってしまう。どうやってこの制度を
PRすればよいか1番問題になっている気がする。
- ・ 最初の一步として、どのようにそういった団体や先生側の部署に伝える

わ
か分からないので、それをもう少し調べてみたい。

＜次世代・教育部会＞

しょう きんい ぶかいちょう
(肖 欣怡 部会長)

- 懇話会に聞きたいことについて、現時点では、外国人の子どもの日本語教育や多文化共生、特に行政側の対応について専門家の話が聞きたい。
- 勉強会でやりたいことについては、部会内部で実施方法に関する提案があった。各委員が関心を持っている内容について、具体的なキーワードを2～3個出して、そのキーワードに沿って分類し、各委員が関心を持つテーマについて勉強会をするという方法である。
- 今出ている勉強会のテーマは、大きく二つに分けられる。一つ目は日本語教育、二つ目は外国人家庭の生活支援である。特に生活支援については子育て支援や、日本の生活に関する行政の取組、生活支援に関する情報提供があげられる。もう一つ、就労支援も大事なテーマである。
- 前回の事務局の情報提供を受けて、今後は具体的にどのような形で勉強会を行うか、他の委員の意見も聞きながら話を進めていきたい。
- 提言構想メモについては、現状で修正したい点は特にない。

＜社会福祉部会＞

りゅう ちよんしる いいんちやう
(柳 晴実 委員長)

- 社会福祉部会では、懇話会に聞きたいことと勉強会のテーマが混在した状態で話が進んだ。
- 外国人高齢者については、介護が必要な方や、介護保険制度を利用したい人への対応について、懇話会委員のうち行政分野の方に話を聞いてみたい。申請手続きの流れや、言葉が分からないときの対応方法、行政でできることなどについて、話を聞けるのではないかという意見が出た。
- また、高齢者の介護、外国人高齢者に関する相談窓口や通訳確保の事業など、県として外国人高齢者に対して何か事業を確立していける可能性があるのか、そのためにはどうすればよいのか聞きたいという話が出た。
- 6番の富本委員に外国人高齢者に対する通訳の実情、通訳を実施する重要性などについて話を聞きたいという意見も出た。
- 今は若いけれども時間が経てば高齢者になっていく外国人が、自分たち

が利用できる制度をきちんと知ったうえで高齢者になっていくということが必要ではないかという意見も出た。

- 例えば仕事をするうえで外国人が知っておくべき制度や、そうした制度に関する情報提供の方法について意見を聞けるとよいという話が出た。
- 医療通訳に関しては、高齢になる外国人が増える中で、心理的なフォローの重要性が高まっている。また、ボランティアがメインになっている状況もあるため、現状や課題について、MIC かながわの方から話聞けたらよいのではないかという意見も出た。
- 12番の丸山委員は、発達障害を含む多様な困難を抱える人の社会復帰のサポートをしていると書いてあったので、保護者に対して、子どもたちの発達障害についてどういうふうに伝えていくのかというところで、アドバイスをいただくとよいと思う。
- 通訳同行には難しい部分もあり、情報を多言語で受け取るという観点で、ChatGPT の活用の可能性に関する話も出た。前期の委員長だったアビさんがIT関係の方なので、話を聞けるかもしれない。提言にするにしても、もう少し私たちが勉強しないと提言にまとめられないと思う。
- 全体的な話として、日本の中で外国人に対する政策がどういうものであるのか、海外における移民政策との対比や、日本における現状について勉強する機会があってもよい。もし話を聞くとしたら、柏崎委員や長縄委員からお話いただくのも、よい勉強になるのではないかと思う。

りゅ ちょんしる いんちよう
(柳 晴実 委員長)

- 次に、あーすフェスタかながわでやりたいことについて意見交換したい。部会別で話し合う予定だったが、時間がないため全体で話したいと思う。
- あーすフェスタで必ず何かやらなければいけないわけではなく、情報提供や意見交換ができないかなど、アイデアがあれば出してほしい。

きむ えよん いん
(金 愛蓮 委員)

- 昨年参加した漫才師は今年も参加するか。

りゅ ちょんしる いんちよう
(柳 晴実 委員長)

- 昨年は企画委員の中に漫才師の方がいて県民会議とコラボした。今年はいない。

すずき いいん
(鈴木クリスチーナ委員)

- ・ 独自に呼ぶこともできないのか。

りゅ ちょんしる いいんちよう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 昨年は企画委員として参加いただいたので、出演料が不要だった。出演料の問題がクリアできれば、企画を立てて呼ぶことも可能である。

すずき いいん
(鈴木クリスチーナ委員)

- ・ あのスタイルは盛り上がった。その後のファッションショーもよかった。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ ファッションショーは定着している企画なのか。

りゅ ちょんしる いいんちよう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 今年もファッションショーの企画はある。ぜひ皆さん自前の衣装で出てもらえたらと思う。詳細が決まったら、担当から声掛けさせていただく。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌熹 委員)

- ・ あーすフェスタと連携する目的は、提言の実現のためか、あーすフェスタの成功のためか。

りゅ ちょんしる いいんちよう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 県民会議の提言の成功のために、私たちがあーすフェスタで何をするかということである。
- ・ ただ、企画を出して運営に関わるという点では、あーすフェスタにしっかりと取り組み、成功を目指すことにもつながる。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ この規模のフェスタだと、実際にはプログラムがほとんど決まっている。その中で、県民会議はどの部分でどういう感じで、時間をもらえるか。

りゅ ちょんしる いいんちよう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 私は今年も企画委員を務めている。全体としては、企画内容がどんどん固まってきている。あーすフェスタの概要について、資料3で説明する。
- ・ 3ページ目に各部会の説明がある。一つ目はステージ部会。ステージの上で踊りや歌などを披露する。昨年は漫才や劇もあった。二つ目のワークショップ部会は体験型で、楽器体験、お茶体験、遊び体験などを実施する。

- 三つ目のフォーラム部会はあーすフェスタの一番の軸となっている。
- 多文化共生に関してセミナーを開催したり、話し合いをする部会である。
- ・ 今年のはあーすフェスタ全体を運営するために、運営サポート部会が設置された。広報や会場内でのスタンプラリーなど全体に関わる企画を行う。
 - ・ 12月3日に象の鼻パークで開催する。ステージ、観客席、その周りにワークショップのテントが並ぶ。フォーラムは県庁内で開催する予定。
 - ・ ステージ部会で行う企画案についてサブコタ委員と話し合っているので、説明をお願いしたい。

(サブコタ ドルラズ 委員)

- ・ 外国人の子どもたちが日本で学んだことや、言いたいことをステージ部会で発表できるようにしたい。皆さんにも協力をお願いしたい。

(柳 晴実 委員長)

- ・ サブコタ委員の提言構想が、子どもたちが母語や母文化を日本でどう学んでいくかという内容であり、私の考えとも重なるところがあるので、子どもたちの母語や母文化をテーマにして、ステージ発表をしたい。
- ・ 子どもだけでなく、親とのつながりをイベントをきっかけに作れたら、母語や母文化を尊重することの重要性を伝えたり、保護者側の考えや課題を把握することにもつなげられるのではないかと考えている。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 子どもたちにスピーチをしてもらいたいイメージか。

(サブコタ ドルラズ 委員)

- ・ 自分が学んだことやシェアできることを披露してもらいたい。

(柳 晴実 委員長)

- ・ 学んだ日本語を披露するのではなく、日本で学んだ自分たちの母語、母文化、踊りなどをステージで披露する。その際に自分たちの思っていることなどを、子どもたちの声で伝えるイメージである。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 朝鮮学校のように組織として出演するならばきちんとできるが、私たちがステージに出演して、どれだけアピールできるかが懸念点である。

りゅ ちょんしる いいんちよう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 昨年、子どもたちがベトナムの踊りを披露してくれた。県民会議の委員の子どもたちが出演するわけではなく、ステージに出てくれる団体やグループを探して声をかけた。今年も、子どもがテーマになっていること、自分たちとつながりのある文化を発表してもらうことを伝えて、企画委員から出演を依頼する感じになると思う。

すずき いいん
(鈴木クリスチーナ委員)

- ・ それ以外に県民会議として何か企画を考える必要があるのか。または、サブコタ委員が考えている企画の中で、私たちの提言を発表するのか。

りゅ ちょんしる いいんちよう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 私たちの提言の内容を発表することは想定していない。他にあーすフェスタでやりたいことがあれば、別企画として出す方法もある。

は さんう いいん
(河 相宇 委員)

- ・ フォーラムには何人くらいの方が参加するのか。

りゅ ちょんしる いいんちよう
(柳 晴実 委員長)

- ・ フォーラム部会の内容は検討中である。今年は10月くらいにミニフォーラムを開催し、12月に本番のフォーラムを開催する予定である。
- ・ 昨年は午前中に宇都宮大学の教授を呼び、多文化共生について勉強した。午後はそれを基にグループワークを実施した。会場には何人入るか。

(サブコタ ドルラズ 委員)

- ・ 昨年は、スピーカーが6人くらいで、参加者は午前中が40人~50人。午後は一つのグループが5、6人で、全部で8グループで実施した。

は さんう いいん
(河 相宇 委員)

- ・ フォーラムを活用して、私たちのオープン会議をそこでやるような形でもよいのではないか。

りゅ ちょんしる いいんちよう
(柳 晴実 委員長)

- ・ その場合、県民会議として、オープン会議をあーすフェスタのフォーラムの中でやりたい、という企画を持っていかないといけない。その上で、フォーラム部会で、その企画を皆で話し合っ作っていく形になる。

- ・ あーすフェスタは、過去は二日間かけて行っていたが、今は一日だけになっていて、フォーラムをできる場所も一箇所しかない。以前は複数の場所があったため分散して実施できた。現在は一つなので、その枠の中でオープン会議という形を維持して実施するのは難しいかもしれない。

(河 相宇 委員)

- ・ オープン会議は、いろいろな人の意見を聞くことが一つの目的だと思う。40人～50人が参加するならよい機会だと思った。オープン会議を行うなら、人が集まる場を活用した方がよいと思って提案させてもらった。

(柳 晴実 委員長)

- ・ あーすフェスタに人は結構来るので、オープン会議をその場でやらなくても、オープン会議の開催を周知する、ワークショップのテントを借りて県民会議について紹介する、参加者にアンケートするなどの活用方法はあると思う。たくさん人が来ることをどう生かすかだと思う。

(金 愛蓮 委員)

- ・ あーすフェスタの企画委員でもある佐々木聖壘さんが、去年は県民会議の委員だったが、強い熱意を持っていた。限られた人しか県民会議を知らないで、あーすフェスタで周知すべきと強調していた。それを考えると、フォーラム部会を活用できないかと私も思った。

(柳 晴実 委員長)

- ・ フォーラム部会の話がどこまで進んでいるか確認する。県民会議でフォーラムに参加することが可能かどうかは、聞いてみないと分からない。
- ・ 実施方法は、その結果を受けた上で考えることとしたい。

(祁 静 委員)

- ・ 世界では異常気象が増えているが、日本は特に地震などの自然災害が多い。例えばワークショップで防災のコーナーを設けて、横浜市消防局やどこかの消防署と一緒に震災体験、防災の知識、救命救急措置などの企画ができないか。地域の防災訓練だと、参加する外国人はほぼいない。
- ・ あーすフェスタには外国籍の方が多く来る。外国にルーツがある方に防災に関する情報を知ってもらいよいチャンスだと思う。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- 複数の企画を実施できるのか。それとも、一つを選ぶ必要があるのか。

柳 晴実 委員長

- 県民会議の委員がどれぐらい企画委員会に参加できるかによると思う。
今出た話だと、河委員と金委員の話はフォーラム部会、祁委員の話はワークショップ部会、サプコタ委員の話はステージ部会になる。
- 各企画を実施するためには、部会に企画委員として参加して、企画を提出する必要がある。企画委員はボランティアで、会議は月1回のペースで夜に開催される。その間に企画毎の打合せや部会毎の打合せもある。そこまで関わるかどうかを含めて、考えていただく必要があると思う。
- レダンコア委員は、昨年フォーラム部会に参加してどうだったか。

レダンコア 委員

- 毎月1回参加して、何をやりたいのか相談しながら少しずつ詰めていく。フォーラムの実施方法、話す内容、フォーカスするポイントを決めた上で、スピーカーを考えていく。やりたい企画があるなら、企画委員会に参加して一緒に話し合っていないと、実現できるかどうか分からない。

柳 晴実 委員長

- フォーラムは全体で一番大事なので、意見を出し合い作り上げていく。ワークショップは、「こういう企画がやりたい」ということを軸に、いろいろな意見をもらいながら、作りあげていく感じになると思う。
- 先ほどの防災の話も、コロナ前にながわ外国人すまいサポートセンターが企画委員で入り、多言語の防災劇を行ったことがある。地震があった時のことを外国語で再現し、日本人が「何を言っているか分からない」といったことを劇にした。「日本で暮らす外国人は、実際こういう状況になるんですよ」といった話をしながらやった。
- 今出た案を実現するためには、企画委員になっていただければと思う。企画委員として関わってみようという方はいるか(→発言なし)。
- フォーラム部会の状況を確認し、改めて皆さんにお声がけする。
- 私は、企画委員に外国人が少ないことが気になっている。あーすフェスタは外国人と日本人と一緒に作り上げていくところがよい点であり、そこで多文化共生を深めていくことが、一番大事な視点だと思っている。外国人の意見がどんどん入り、あーすフェスタが作られていくとよいと思

っているので、企画委員をやりたい方は、いつでも連絡をいただきたい。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 今年参加できないが、昨年参加していろいろな経験をした。今までは参加者の立場でいろいろな活動に参加していたが、開催者の立場だと、一緒に何かを作るチームとして活動する。自分の意見を出して相談を重ねていくことで、それぞれの意見が尊重される実感がある。
- ・ 特に外国人は、自ら意見を発言していかないと、待っているだけではやってくれる人がいないと参加してみて感じた。

(河 相宇 委員)

- ・ あーすフェスタでオープン会議の宣伝をするなら、現状のスケジュール案では11月～12月にオープン会議を行う予定になっているが、1月～2月にずらした方がよいと思う。時期をずらすことは可能か。

(事務局)

- ・ 資料記載のスケジュールは案なので、可能である。

(柳 晴実 委員長)

- ・ 最後に、レダンコア委員から提案があるので、説明をお願いしたい。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 県には外国人の支援組織が多数あり、様々なイベントを行っているが、情報が集約されていない。Googleドライブでデータベースを作りたい。
- ・ 各組織で行うイベント情報を集約して、イベントの時間や場所をLINEグループで周知するような取組をしたいと思っている。
- ・ 私は鶴見国際交流ラウンジにいるが、他のラウンジで何をやっているかわからない。例えば研修会を探している方が来た場合、鶴見では実施していなくても、他のラウンジでは実施しているかもしれない。ただ、現状は情報が無いためお知らせすることができない。
- ・ 長期的な目標としては、外国人が自分が住む地域の週末のイベントなどを簡単に知ることができる、ポータルサイトのようなものを作りたい。自分のニーズに合う情報が取得できるようにできるとよい。まずは、県民会議の各委員から情報を集めて、数か月運営してみたいと思う。
- ・ 関心のある方がいれば、チームを作ってアイデアを出し合いながら進

めたい。韓委員のコミュニティのつながりを作る提言構想にも近いのではないか。各コミュニティの活動が共有できれば、コミュニティ同士のつながりも強くなると思う。また、情報部会の方々にもできれば協力していただきたい。今後はLINEやメールで情報共有させていただく。

(金 愛蓮 委員)

- ・ ボランティアで情報を集めて、データベースを作るのか。

(レ ダンコア 委員)

- ・ そうしたサービスがあれば、誰でも使える。鶴見国際交流ラウンジのホームページでも活用できる。お客さんのためにもなると思う。

(金 愛蓮 委員)

- ・ その作業をレダンコア委員が行うのか。

(レ ダンコア 委員)

- ・ チャレンジでやってみたい。

(金 愛蓮 委員)

- ・ まずは自分で調べた情報の範囲内で、作ってみてはどうか。私たちが持っている情報を提供しないと作れないものなのか。

(柳 晴実 委員長)

- ・ 以前、県民会議の中で、各委員が関わっている団体の研修やイベント、セミナーがあれば情報交換しようという話をした。先日レダンコア委員と話をしていた時に、「私がやりましょうか」と言ってくださり、この提案につながっている。
- ・ 自分が持っている情報だけでよいので、LINEやメールでレダンコア委員に情報提供していただきたい。まずは集約した情報をこの会議の中で共有して見て、使いやすさの検証をすることも必要だと思う。
- ・ 本格的に実施・継続する場合は、県民会議の委員は変わってしまうため、誰が管理し続けるかという課題も出てくる。当面はこのメンバーの中で、情報共有のツールとして使ってみる、ということで考えてほしい。
- ・ 本日は話しきれなかった部分は、次回の会議に持ち越す。各自、自分の提言構想を見直していただき、変更点があれば事務局に提出してほしい。
- ・ また、名刺の原稿を配布したが、変更、追加、削除などの希望があれば、

事務局に伝えてほしい。原稿には記載されていないが、各委員が所属する部会の名前を、入れていただくようお願いしている。

- 今後のスケジュールについて、本日、勉強会の案もいろいろ出たので、委員長、副委員長、部会長で打合せをして、決めていきたい。
- 事務局から連絡事項などがあれば、お願いしたい。

事務局

- 次回の会議日程は、後日各委員にメールを送付し調整する。

(以上)